

(様式第8号)

平成30年度 函館市市民協働モデル事業実績報告書

平成30年12月2日

函 館 市 長 様

補助事業者等	住 所	函館市石川町311-16
	団体名および	函館市女性会議
	代表者名	会長 佐々木 香

補助事業等の名称 「災害を乗り越える知恵と力をつける女性防災講座」

平成30年5月17日付け函総務をもって補助金等の交付決定を受けた上記の補助事業等は、平成30年11月30日に完了したので、関係書類を添えて報告します。

補助金等交付決定通知額	金	250,000円
補助金等領収済額	金	250,000円
補助金等領収未済額	金	0円

市民協働モデル事業の実績書

事業の名称	災害を乗り越える知恵と力をつける 女性防災講座
団体名	函館市女性会議
総事業費	500,000円 (うち自己資金等 0円)
事業の内容(対象者, 実施方法等)	<p>女性(女性に限らず, 一般参加を募る)を対象とし, 年間3回防災に関する講座を開催し, 防災に関するリーダーを養成することができた。</p> <p>第1回目 <午前>「忍術で防災?～仕組みを学んで, 災害時に役立ついろいろな技を身につけよう～」 日時:平成30年7月28日(土) 11:00～12:00 場所:はこだてみらい館 講師:アウトドア流防災ガイド あんどうりす 災害の起こる仕組みを子供にも分かりやすく解説し, LED ランタン作りのワークショップを実施。参加者:親子50名(大人26名, 小人24名)。 <午前^後>「アウトドアの知識を活かせば, 日々の暮らしが防災に!」 日時:平成30年7月28日(土) 13:00～16:00 場所:はこだてみらい館 講師:アウトドア流防災ガイド あんどうりす 「子育てグッズ」を「防災グッズ」にしてしまうコツを伝授。聞いたらすぐに備えたいくなる, 聞いたらすぐに実践できる, 子育て家庭向けの防災講座を実施。参加者:23名。</p> <p>第2回目「コミュニティ力=防災力 ～生活者の視点で命を守る～」 日時:平成30年10月6日(土) 13:30～16:00 場所:コンテ日吉 多世代交流センター 講師:国際防災コンサルタント 高橋 聖子 災害に備えるためには日頃から男女共同参画の地域づくりが必要であり, 地域の「受援力」を高めるための講座を実施。参加者:27名。</p> <p>第3回目「災害時に知っておきたいトイレの備え」 日時:平成30年10月13日(土) 13:30～16:00 場所:公立はこだて未来大学 講師:NPO法人日本トイレ研究所 代表理事 加藤 篤 災害時に安心できるトイレ環境をつくるためには, 自助・共助・公助の連携なくしてはできず, トイレを考えることによって人の弱点を学び, 支えるアクションにつなげる講座を実施。参加者:30名。</p> <p>全講座を履修した方には, 修了証を授与した。(7名)</p>

市民協働モデル事業実施による効果等調書

事業の公益性・課題の改善	<p>近年全国で様々な災害が発生しており、本年9月には函館でも北海道胆振東部地震による大規模停電が発生している。災害を最小限にとどめるためには、防災知識の普及・啓発が不可欠で、平成26年6月の函館市地域防災計画の改正でも、男女共同参画その他の多様な視点を取り入れた防災体制の確立による地域防災力向上がうたわれ、市でも取り組みを始めたところだが、今回の市民協働モデル事業を実施したことにより、多くの女性を対象とし、男女共同参画の視点を取り入れた講座を実施し、函館市の地域防災力の向上に寄与した。</p>
事業の効果・成果	<p>市が行っている出前講座などの一般的な防災教育では対応しきれない性差による災害への備え、被災時および被災後の対応等について、当会議の今までの経験を踏まえ講座を企画したことから、被災時に弱者となり得る女性の防災力向上が図られた。</p>
事業の具体性・実現性	<p>今年度の事業では、はこだて国際科学祭の一環として親子向けの講座、生活者の視点で命を守るため国際防災コンサルタントによる講座などを実施し、特に女性の視点を多く取り入れて開催した。本事業は平成29年度から平成31年度までの3年間継続して実施する予定としており、本事業終了時に参加者の中から「函館女性防災ネットワーク」を立ち上げ、活動を継続する予定。</p>
協働の役割分担の明確化・相乗効果	<p>本事業では、これまで当会議が行ってきた防災学習会などの講演会実施の経験を活かした講座の企画・運営を行い、函館市総務部総務課防災担当が町会等との関係を活かした広報を担当し、市民・各団体へ広く周知等を行った。</p>
先進性・アイデア性	<p>函館市女性会議は、従来から防災学習会を実施しており、昨年度にはさらにそれを拡大発展させた講演会を開催した。</p> <p>今年度は、被災して初めて実感することとなる「災害時のトイレ事情」、地域の希望の星である子供を守るための「子育て防災講座」などにおいても、当会議の特色を活かした、男女共同参画の視点から男性にも女性にも身になる、今までの函館ではなかったひと味違う講座の実施ができた。</p> <p>従来から市との関係が深い自主防災組織などの町会を主体とする組織ではなく、子育て中の家族などより若い世代の参加を図ることができ、函館市の地域防災力の向上に寄与した。</p>
費用の妥当性・経費節減	<p>運営については、当会議の会員が手分けし、また、広報についても市の防災担当の手を借りて行うこととして費用の節減を図った。会場については公共施設を利用して使用料及び賃借料の軽減を図った。講師の旅費についても、パック商品を利用してもらうなど、当初の予定より低く抑えることができた。</p>

市民協働モデル事業の収支決算書

【収入の部】

(単位:円)

項目	本年度 当初予算額(C)		本年度 決算額(D)		増 減 (C) - (D)		内 訳
		うち補助 対象経費		うち補助 対象経費		うち補助 対象経費	
函館市	250,000	250,000	250,000	250,000	0	0	
自己資金	100,000	100,000	0	0	△100,000	△100,000	
協賛金	50,000	50,000	197,000	197,000	147,000	147,000	
参加費	100,000	100,000	53,000	53,000	△47,000	△47,000	7月28日午前 26名 7月28日午後 23名 10月6日 27名 10月13日 30名 合計 106名×@500
合計(A)	500,000	500,000	500,000	500,000	0	0	

【支出の部】

(単位:円)

項目	本年度 当初予算額(C')		本年度 決算額(D')		増 減 (C') - (D')		内 訳
		うち補助 対象経費		うち補助 対象経費		うち補助 対象経費	
報償費	170,000	170,000	174,000	174,000	4,000	4,000	別表に記載
旅 費	191,000	191,000	166,102	166,102	△24,898	△24,898	
需用費	49,000	49,000	69,234	69,234	20,234	20,234	
役務費	65,000	65,000	78,378	78,378	13,378	13,378	
使用料 及び 賃借料	25,000	25,000	12,286	12,286	△12,714	△12,714	
合計(B)	500,000	500,000	500,000	500,000	0	0	

※ 収支差額(A) - (B) 〇 円

- (注) 1 収入の内訳には、金額の算出基礎その他必要な事項を記載すること。
2 支出の内訳は、様式第10号別表に金額の算出基礎その他必要な事項を記載すること。

市民協働モデル事業の収支決算の内訳

(単位:円)

項 目	決 算 額	内 訳	補助対象経費	項目小計
報償費	174,000	【謝礼金】 174,000 円 〈内訳〉 第1回講座 70,000 円 第2回講座 50,000 円 第3回講座 54,000 円	174,000	174,000
旅 費	166,102	【旅費】 166,102 円 〈内訳〉 第1回講座(東京) 61,052 円 第2回講座(東京) 58,600 円 第3回講座午後(東京) 46,450 円	166,102	166,102
需用費	69,234	【チラシ等印刷製本費】 @6 円×5,000 枚×1.08=32,400 円 【看板・横断幕制作費】 15,552 円 【消耗品費(用紙代等)】 一式 21,282 円	69,234	69,234
役務費	78,378	【郵送料(ハガキ・切手代・郵便料)】 一式 15,378 円 【スタッフ交通費(役員・理事14名)】 (打合せ・準備 6 回, 講座当日 3 回) @500円×14名×9回=63,000円	78,378	78,378
使用料及び 賃借料	12,286	【会場使用料】 3,466 円 〈内訳〉 第2回 600 円 第3回 2,866 円 【駐車場使用料】 2,270 円 〈内訳〉 第1回 2,270 円 【コピー機使用料】 6,550 円 〈内訳〉 第1回 3,000 円 第3回 3,550 円	12,286	12,286
合 計	500,000		500,000	500,000